



障がい児のスキー支援

旭 川 速 水 潔

最近、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定や「障害者差別解消法」の施行（平成28年4月1日）等が後押しとなって「障害のあるなしに関わらず、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会（共生社会）の実現」を、目指そうという機運が高まっています。

旭川市内には54校の小学校があり、そのすべてが「スキー学習」を取り入れています。

低学年は、学校のグラウンドや築山で基礎的な練習をする学校が多いのですが、少なくとも2年生以上はスキー場に行きます。

「旭川シュプールクラブ（会長・菊池保則）」では、長年にわたってSAJ公認指導員の有資格者を、小学校のスキー学習支援に派遣しています。しかし、これまで「障がい児」のスキー支援は行ってきませんでした。

旭川市内の小学校には、20名の障がい児が通学しています（平成29年3月現在）。

障がい児のスキー学習では、障がい者用のスキー用具や指導者が不足しており、別メニューか、見学か、ソリ遊びになっているのが現状です。昨シーズン、T小学校の車椅子の2年生がスキー学習の時に、「友達と一緒にスキーに乗りたい」という話を耳にして、旭川シュプールクラブの有志が「道北地区障害者スポーツ指導者協議会」が所有する2台のバイスキーを借用して、支援を始めたのが障がい児へのスキー支援のきっかけとなりました。

旭川教育委員会とサンタプレゼントパークスキー場も、非常に好意的に協力していただき、昨シーズンは延べ7名の障がいを持つ子供のスキー支援を行いました。

しかし、昨シーズン使用したバイスキーは、

20年以上も前の用具で更新が望まれることから、旭川市教育委員会では平成28年度末の予算で、アメリカ製のバイスキー1台（付属品を含めて約60万円）を購入していただきました。



リフト係員のお手伝いで初めてリフトに

また、秋田大学名誉教授の土岐 仁先生等が、開発した「両下肢障がい者用スキー」1台も、シーズンに間に合うよう貸与していただくことになっております。



初めての滑降、思わずニコリ！

今シーズンは、旭川シュプールクラブの組織

の中に「障がい者支援部（仮称）」を作り、障害を持つ子供たちに、さらに安全で楽しいスキーを支援していきたいと思っております。

SAHシニアアドバイザー

旭川スキー指導員会 副会長

旭川障害者スポーツクラブ 会長



バイスキーの掲載記事
(平成29年 1 月 27 日付け北海道新聞)

情報メモ

ピクトグラム (ピクトグラフ)

ピクトグラムとは、一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つである。地と図に明度差のある色を用いて、表したい概念を単純な図として表現する技法のこと。

主に鉄道駅や空港などの公共空間で使用され、文字による文章で表現する代わりに、視覚的な図で表現することで、言語に制約されずに内容の伝達を直感的に行う目的で使用されてきた。

日本においては、1964年東京オリンピック開催時に外国語（特に英語）によるコミュニケーションをとることができ難い当時の日本人と外国人の間を取り持つために、勝見勝らによって開発されたのが始まりで、1980年代以降、広く使われるようになった。

2001年には、一般案内用図記号検討委員会の検討を経て、代表的な案内用マーク（標準案内用図記号）125項目が日本工業規格（JIS）統一規格とされた。2017年には、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人にも分かりやすくするため国際標準化機構（ISO）規格に揃えるため、変更することになった。

基本的には国によって異なるが、国際的にある程度意味が統一されているものもある。

なお、図形化された図案に対する著作権は放棄している。



身障者設備
車椅子マーク(国際シンボルマーク)



非常口
非常口マーク



禁煙
禁煙



テニスコート
テニスコート

(フリー百科辞典：ウィキペディアから一部引用)